

実践のまとめ（第2学年 社会科）

見附市立南中学校 教諭 真保 祐弥

1 研究テーマ

社会的事象を多面的・多角的に考察し、判断・表現する生徒の育成

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

少子高齢化の進行やグローバル化・情報化の進展、AI（人工知能）の発達など、子どもたちは将来の予測が困難な時代を生きている。そのような社会の中で子どもたちが未来を切り拓くためには、物事を正確にとらえ、課題の本質を理解する力が必要だと考えた。

社会における様々な課題を解決するためには、対象とする物事に「どのような側面があるか(多面的)」や「どのような立場(多角的)」があるのかを把握することが欠かせない。自分の考えを相手に分かりやすく伝え、他者の意見(立場)も理解しながら、よりよい解決策や納得解を見いだしていくことも必要である。社会科の学習においても社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象を多角的・多面的に考察することが求められている。そこで、本研究では、「社会的事象を多面的・多角的に考察し、判断・表現する生徒の育成」を目指して実践・検証することを目的とした。

(2) 研究テーマに迫るために

① 多面的・多角的に考察する必要がある学習課題の設定

ア 「吉宗の享保の改革は善政だったのか?～享保の改革は幕府や人々の状況を改善することができたのか～」という学習課題を設定する。幕政改革を評価するためには、支配者である幕府の立場だけでは不十分である。身分制度が確立していた時代であることから、武士や町人、百姓などのさまざまな立場から考察する。

イ 本実践における「多面的」とは、享保の改革の財政面(上米の制や新田開発、定免法、五公五民など)や行政面(目安箱の設置や公事方御定書など)を指す。「多角的」については、「幕府」や「武士」、「町人」、「百姓」といった立場を指す。本実践では、享保の改革の「財政面」や「行政面」を「幕府」や「百姓」など様々な立場から考察する。

② 多面的・多角的な考察を促す思考ツール活用や学習形態の工夫(協働的な学び)

ア 思考ツール「マトリックス」を用いて、享保の改革を「幕府」、「武士」、「町人」、「百姓」の立場から考察する。

イ 異なる意見をもった生徒でグループを編成し、多面的・多角的に考察する。

(3) 研究テーマに関わる評価

ワークシートを中心とする生徒の記述による評価

ア 生徒の記述を分析し、多面的・多角的な考察が表れている生徒の割合から評価する。

イ 多面的・多角的な考察に苦手意識をもつ生徒を抽出生として、その変容を評価する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「江戸時代の中期以降、なぜ幕府は改革を繰り返す必要があったのか?」(『中学社会 歴史 未来をひらく』教育出版 (3) 近世の日本 (エ) 幕府の政治の展開)

(2) 単元の目標

- ① 貨幣経済の広がりや経済格差、度重なるききん、欧米列強の接近を基に、江戸幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解する。
- ② 社会の変化と幕府の政治の変化に着目して、貨幣経済の広がりに伴う経済格差の発生とそれを背景とする百姓一揆の増加や、社会や経済の変化に対応する幕政改革の展開について、事象を相互に関連付けながら多面的・多角的に考察して表現する。
- ③ 近世日本の社会の変動の中で幕府の政治が行き詰った原因や背景について、これまでに学習したことや自分の知識を活かして追究し解決しようとする態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
貨幣経済の広がりや経済格差、度重なるききん、欧米列強の接近などから、江戸幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。	近世社会の変化と幕府の政治の変化に着目して、経済格差の発生とそれを背景とする百姓一揆の増加、政治改革が必要だった理由や改革の結果(影響)について、事象を相互に関連付けながら多面的・多角的に考察して表現している。	近世日本の社会の変動の中で幕府の政治が行き詰った原因や背景について、見通しをもち、既習内容や自分の知識を活かして追究し解決しようとしている。

(4) 単元の指導計画と評価計画 (全9時間)

次 (時数)	学習内容	学習活動 ■ 予想される生徒の反応	主な評価規準と方法 (評価方法は【1】)
1 (2)	・江戸後期の年表から単元の課題を設定しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の年表資料から、繰り返し政治改革が行われていることに着目し、単元を貫く学習課題「なぜ、幕府は政治改革を繰り返す必要があったのか？」を課題として設定する。 ■幕府は改革を何度も行っている。 ■安定した支配のしくみを作ったはずなのに、どうしたのだろう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主体的に学習に向かう態度</div> <ul style="list-style-type: none"> ・年表から幕府政治の変遷の様子を読み取り、課題に対し関心をもち、既習内容を踏まえ、予想を立て、課題の解決の見通しをもっている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">【ワークシート】</div>
	・江戸中期以降の社会の様子に着目して、予想を検証しよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・既習内容や年表をもとに予想を立て、学習の見通しをもつ。 ■幕府の財政に問題があったのではないか。 ■産業が発展して、商人が力を付けたことと関係があるのではないか。 ■幕府が財政難を改善するために、百姓からたくさん年貢を集めたことで、不満をもたれたのではないか。 ■ききんや乱が起きているから、人々が不満をもったのではないか。 ・教科書や資料を基に予想を検証する 	

		<p>ことを通して、貨幣経済が広まったこと、それにより幕府や藩が財政難に直面したこと、農村で困窮する百姓が現れ、格差が生じたことなどを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■貨幣経済が広まったことで、幕府は財政難になってしまった。 ■農村にも貨幣経済が広まり、貧しい百姓が現れ、貧富の差が生じていた。 ■そんな状況で幕府はどんな政治をしたのだろうか。 	
2 (3)	<p>吉宗の享保の改革は善政だったのか。 ～享保の改革は幕府や人々の状況を改善することができたのか～</p>		<p>思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「吉宗の享保の改革は善政だったか」について、多面的・多角的に意見を記述している。 <p>【ワークシート】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に、様々な立場から享保の改革が善政だったのかを評価しよう。 (2/5時間目) ・吉宗の享保の改革は善政だったのかを話し合おう。 (本時3/5時間目) 	<ul style="list-style-type: none"> ・享保の改革の目的や内容を確認する。 ■享保の改革の目的は財政や政治の立て直しだ。当時の状況を改善できたのか。 ・享保の改革の内容や成果、人々に与えた影響など着目し、幕府や武士、町人、百姓の立場から考察する。 ・享保の改革が幕府や人々に与えた影響をマトリックス表にまとめる。 <p>*本時の展開を参照</p>	
3 (1)	<p>田沼の政治と松平の寛政の改革はどのような政治を行ったのだろうか。 そして、二人の政治はうまくいったのだろうか。</p>		<p>思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田沼の政治、寛政の改革の政策の結果について、多面的・多角的に考察している。 <p>【ワークシート】</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・享保の改革と田沼の政治、寛政の改革の政策を比較しよう。 ・田沼の政治と寛政の改革は、うまくいったのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・享保の改革と田沼の政治、寛政の改革の政策の目的や内容を比較し、商業政策の田沼の政治と、吉宗にならって農業政策を行った寛政の改革について理解する。 ■力のある商人に目を付けた田沼の方が幕府の財政を立て直しそうだ。 ・政策の結果や人々の反応に着目し、二人の政治の成果と課題を考察する。 ■田沼も松平も、ききんや自然災害に対応できなかった。 	
4 (1)	<p>「内憂外患」に幕府や藩はどのような対応をしたのか。</p>		<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内の混乱や外国船の接近への幕府の対応から幕府政
	<ul style="list-style-type: none"> ・「内憂外患」とは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国船の接近や北方の調査について白地図に場所と内容を書き入れる。 ・外国船打払令の影響を考える。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・「内憂外患」に幕府や藩はどのように対応したのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大塩平八郎の乱や天保の改革の結果について調べ、幕府の権威の低下や政治の行き詰まりを理解する。 ■外国船の接近や国内の内乱で、幕府の支配はかなり弱まっている。 	<p>治の行き詰まりを理解している。</p> <p>【ワークシート】</p>
5 (1)	<p>政治や社会が揺れ動く中、どのような文化が生まれたのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学問や思想、化政文化について調べよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい学問や思想、化政文化の内容について調べる。 ・政治や社会の動揺と文化の関係を、ウェビングマップで考察する。 ■幕末にも影響を与えるような学問や幕府を批判する文化が登場しているから、文化からも幕府の支配がうまくいっていないことが分かる。 	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい学問や思想の動き、江戸を中心とした文化について理解している。 <p>【ワークシート】</p>
6 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を振り返って、単元を貫く学習課題に対する考えをまとめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「江戸中期以降、なぜ幕府の改革を繰り返す必要があったのか？」について、近世の年表を使って、社会の変化の様子と幕政の対応（幕政改革）、その成果と課題を関連付けながら整理する。 ■幕府が改革を繰り返す必要があったのは、江戸幕府が貨幣経済の発展や外国船の接近など、多くの社会の変化に対応する必要があったからだ。 	<p>思考・表現・判断</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政治改革が必要だった理由や改革の結果（影響）を多面的・多角的に考察し、説明している。 <p>【ワークシート】</p> <p>主体的に学習に向かう態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化により幕府政治が行き詰まる推移について近世社会に関心をもってまとめている。 <p>【ワークシート】</p>

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領（平成 29 年告示）の歴史的分野の内容「B 近世までの日本とアジア (3) 近世の日本 (エ) 幕府の政治の展開」に基づいて設定している。この単元では、以下の事項を身に付けることになっている。

<p>(3) 近世の日本 (エ) 幕府の政治の展開</p> <p>ア 次のような知識を身に付けること。</p> <p>社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解すること。</p> <p>イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。</p> <p>社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。</p>
--

本単元のねらいは、社会の変化の中で幕府の政治が行き詰まっていったことを理解することである。この単元における「社会の変化」は、産業が発展したことによる貨幣経済の広まり、社会に経済格差が生じたこと、それに伴う百姓一揆・打ちこわしなどが多発したこと、欧米諸国が日本に接近してきたこ

と、と捉えている。

社会の変化は幕府政治に大きな影響を与えた。産業の発展による貨幣経済の浸透は、百姓が納める年貢（米）に支えられた幕府の財政を悪化させた。財政の立て直しのため年貢の増収や農村の復興などの農業政策をとる享保の改革や寛政の改革、年貢に頼る財政の限界に気付き、成長してきた商人の力を利用した田沼の政治は、一定の成果を上げつつも、貨幣経済や自然災害といった社会の変化に対応しきれなかった。欧米諸国の接近や大塩平八郎の乱など幕府政治を揺るがす出来事が発生し、国内外で対応を迫られる中、幕府の政治は次第に行き詰まっていった。

社会の変化に伴う幕府政治の動揺を理解するためには、これらの事情や背景をよく整理するとともに、当時の社会の様子と関連付けて、さまざまな立場から幕府政治を捉える学習が必要になると考える。

(2) 生徒の実態

授業実践を行う2年2組の生徒は、男子13人、女子17人の計30人である。親和的な集団で、話し合い活動にも積極的に取り組む。しかし、相手に分かりやすく伝えることが苦手な生徒も少なくない。

4月に行われたCRTの結果から、5段階評価の4が(61%)であったのに対し、2が(20%)と学級内の学力差が大きいことが分かった。生徒の実態を把握するためのアンケート(N=29)(7月)では、「社会科が好きか」という質問に対して、100%(30人)が肯定的な評価をした。「社会を学ぶ意義はあるか(役に立つか)」という質問には、96%(29人)が肯定的に回答した。「多面的(多角的)に考えることは大切だと思うか」という質問には、96%(29人)、93.3%(28人)が肯定的に回答した。その理由を述べる質問に対しては、「自分の立場だけでなく、他の立場から見た方が、課題が見つかるから」といった回答がある一方で、「大切だと思うが、複雑になって難しく感じる」といった記述もあった。「多面的(多角的)にできているか」については、「できない」という回答が、それぞれ50%(15人)と46.7%(14人)という結果であった。アンケート結果からは、「多面的・多角的」に考えることの大切さは理解しているが、多くの面や立場から考えることについて、学習の難しさや複雑さを感じている生徒がいることが分かった。

歴史的分野では、近世の日本の単元において、「徳川家康は、どのようにして長く続く江戸幕府を築いたのか」や「平和で安定した時代となり、社会はどのように変化したのか」といった単元を貫く学習課題を設定して学習を進めてきた。生徒は、江戸幕府が圧倒的な経済力と軍事力を背景に、大名の統制や鎖国体制、身分の統制を進め、強大な支配体制を築き、安定した時代をつくったことや、産業や流通の発達により町人が力を付け、町人文化が発達したことを理解している。このことと比較しながら、江戸時代の中期以降の年表を読み取ると、生徒は、幕府が政治改革を繰り返し行ったことに気付き、強大な支配体制を築き、安定していたはずの幕府政治に改革が必要になったことについて、疑問を抱くはずである。その疑問から単元を貫く学習課題「江戸時代の中期以降、なぜ幕府は改革を繰り返す必要があったのか」を設定したい。生徒の予想や気付きを深めながら、当時の社会の変化と幕府政治を関連付けて、多面的・多角的に考察する学習を展開する。

5 本時の展開(令和5年10月31日実施)

(1) 目標

「吉宗の享保の改革は善政だったのか」について、多面的・多角的に考察し、意見を記述する。

(2) 展開の構想

本時は、前時まで考えた「吉宗の享保の改革は善政だったのか」について、異なる意見をもつ生徒同士が意見を交換する。他者の意見と比較することを通して、生徒の多面的・多角的な考察を促したい。

(3) 展開

展開	・学習活動、T 教師の働きかけや発問、S 生徒の反応	支援・評価
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を整理する。 T 「今は何を課題として学習をしていますか」 S 「享保の改革は、幕府や武士、町人、百姓の状況を改善できたのか、政策がそれぞれの立場にどんな影響を与えたのかについて調べ、享保の改革が善政かどうか考えました」 T 「今日は、徳川吉宗の享保の改革が善政かどうか話し合い、自分では気付いていないことを見付けたり、意見を深めたりしましょう」 ・学習課題を確認する。 	
展開 40分	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">◎ 吉宗の享保の改革は善政だったのか？話し合おう！</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・3～4人のグループで享保の改革が善政だったかどうかを話し合う。 ・善政か悪政かについては、下のスケールのように表す。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・前時までグループで作成したマトリックスや資料を基に説明する。 ・結論だけでなく理由や根拠の違いをメモする。 ・疑問や反対意見があるときは質問をする。 <p>T 机間支援を行う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p><善政と評価をした生徒 例></p> <p>例1) 享保の改革は善政だと思う。その理由は、改革の目的の財政難を改善したからだ。武士、町人に倹約令を出し、自ら率先して質素な生活を行い、支出を減らした。新田開発や定免法で年貢を多く集め、収入を増やしたことで財政を立て直し、幕府政治を維持することができた。</p> <p>例2) 善政だったと思う。その理由は、庶民に寄り添う政治をしていたからです。例えば、目安箱で庶民の意見を取り入れ、貧しい人々のための医療施設も作った。また、享保のききんで苦しむ人々をみて、さつまいも栽培の研究に力を入れた。</p> <p><善政ではないと評価した生徒 例></p> <p>例3) 享保の改革は善政ではないと思う。農村では貨幣経済が広がって、百姓は不安定な生活をしていた。不作でも一定の年貢を集めることは百姓には厳しすぎる。ききんのときには百姓一揆も起こった。幕府の財政は大切だが、苦しんでいる百姓から年貢を多くとるのは善政ではないと思った。</p> <p>例4) 困窮する都市の人々が不満をもっていたから善政ではないと思う。幕府は、米価を調節しようとしたけれど、うまくいかなかった。特に、ききんが起こったときは、米価が高騰して、都市の人々は困窮し、江戸で初めて打ちこわしが起こった。</p> </div> <p>T 「話し合いを基に、もう一度自分の意見を書きましょう。大きく意見が変わらない場合でも、話し合いで得た新しい気づきを付け足したり、考えたことを書きましょう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いを基に、自分の意見を再構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・改革に対する評価や評価の根拠が異なる生徒で3～4人のグループをつくる。 ・マトリックスや資料を基に説明するよう促す。 ・同じグループの生徒の意見は事前に印刷し、各グループに配付する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>思考・表現・判断</p> <p>「吉宗の享保の改革は善政だったのか？」について、多面的・多角的に考察し、意見を記述している。</p> <p>【ワークシート】</p> </div>

まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・享保の改革に対する意見を数名が、発表する。 ・次時の学習に見通しをもつ。 T「皆さんが評価したように、享保の改革は、一時的に財政の立て直したことは成果でした。しかし、貨幣経済が広がって農村で貧富の差が広がる中、米の価格の激しい変動やききんの発生が起こると百姓一揆や打ちこわしも増加しました。社会の変化やききんへ対応には苦勞したようですね。さて、この後は誰が幕府の舵を握るのでしょうか」	
-----------	--	--

(4) 評価

「吉宗の享保の改革は善政だったのか？」について、多面的・多角的に考察し、意見を記述している。
(思考・判断・表現)

A (十分に満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (努力を要する)
「吉宗の享保の改革は善政だったか？」という問いに対して、具体的な歴史事象を例示しながら複数の立場から享保の改革の成果や課題について述べ、理由を記述している。	「吉宗の享保の改革は善政だったか？」という問いに対して、複数の立場から享保の改革の成果や課題について述べ、理由を記述している。	Bに満たない。

6 板書計画

① 江戸中期以降、なぜ幕府は政治改革を繰り返す必要があったのか。

◎ 吉宗の享保の改革は善政だったのか。話し合おう。

善政
善政ではない

<授業の流れ>

- 1 課題の確認
- 2 グループで課題について話し合おう
- 3 意見を記述
- 4 まとめ

<話し合いのポイント>

- 1 マトリックス表や資料を基に説明しよう
- 2 理由や根拠に違いをメモ
- 3 疑問や反対意見は質問する

7 実践を振り返って

(1) 授業の実際 (テーマに迫る手だてから)

① 多面的・多角的に考察する必要のある学習課題の設定

ア 第一次：単元を貫く学習課題を設定し、生徒に単元の学習の見通しをもたせた。単元を貫く学習課題は「江戸時代の中期以降、なぜ幕府は改革を繰り返す必要があったのか」を設定した。さらに、課題について予想を立てさせた。予想を立てる際には、既習内容や年表から読み取れる政治の変化に着目するように促した。生徒は、次のように予想した。

- ・綱吉の政治以降、財政が悪化していたため、幕府は改革をする必要があった。
- ・ききんや百姓一揆、打ちこわし(町人)が起こっていることと関係があると思う。
- ・商人が力を付けていたので、商人(町人)から抵抗してきた。
- ・～の乱が起こっているから。武士が反乱を起こしてきたから。

これらの予想を基に、課題を追究する際には、幕府の政治の動きだけでなく、 で示した立場から幕府政治を考察していくことを確認した。

イ 第二次：学習課題を「吉宗の享保の改革は善政だったのか？～享保の改革は幕府や人々の状況を改善することができたのか～」とした。生徒は、享保の改革が善政だったかを判断するため、幕府の立場だけでなく、武士・町人・百姓の立場からも改革を考察した。単元を貫く学習課題についての生徒の予想を整理したときに、社会的事象に関わる様々な立場を整理したことや、学習課題に複数の立場から考察する必然性をもたせたことは、生徒の多面的・多角的な考察を促したと考える。

② 多面的・多角的な考察を促す思考ツール活用や学習形態の工夫(協働的な学び)

ア ②アの手だてについて

第二次では、享保の改革の政策を多面的・多角的に考察できるよう、図1のような「マトリックス」を用いた。生徒は4～5人のグループで、享保の改革をそれぞれの立場から考察し、改革から受けた影響を整理した。思考ツールを用いたことにより、多面的・多角的に意見を記述することができたと考えられる。

享保の改革の政策		幕府	武士	町人	百姓
財政政策	収入を増やす	新田開発 年貢の増徴のため、新田を広げる。	定免法 百姓から課税・年貢に課税なく一定の年貢を集める。	米価を調整する 商人に米を買い占めさせて米価を上げる。	上米の制 大名には参勤交代を軽減する代わりに米を献上させた。
	減出を	倹約令 大名や武士、町人、百姓に参勤交代、ぜいたくを禁止した。吉宗自ら率先して質素な生活をした。			
		目安箱を設置する 江戸に目安箱を設置して、町民(町人)と百姓(百姓)の意見を政治に取り入れた。			
		有用な人材を登用 大層な官を江戸参勤とし、町火消などの防火対策を進めさせた。			
その他の政策	公事方御定書をつくる 公正に裁判を行うための、これまでの裁判の記録をまとめて整理し、裁判の基準を定めた。				
	実学を推奨する 生活や産業に役立つ学問に力を入れる。享保のききんを受けて、ききんに備える食料として、実地に左右されず、本質的で良いウツツで栽培の研究を行った。				

図1 思考ツール「マトリックス」

生徒Aは、学習課題について多面的・多角的に表現した(図2)。Aは、享保の改革の米価の調整や定免法などの財政面の政策を、幕府や武士と百姓と町人の立場から考察した。享保の改革が幕府や武士の収入を増やした一方で、百姓や町人に負担を強いたことで百姓一揆や打ちこわしにつながったことを根拠に意見を記述した。目安箱の設置などの行政面の政策にもふれ、百姓や町人にとってよい政策を行っていたことも記述した。学級の93%(27/29人)の生徒がこのように複数の立場から考察し、記述した。

吉宗の享保の改革は 悪い改革 だと思う
理由(根拠とした歴史事象や資料から分かったことを示しながら書きましょう)
米価の調整を行ったり百姓から納税も年貢の量を減らしたり幕府や武士の収入は増えたがその結果百姓や町人は生活が苦しくなり百姓一揆や打ちこわしを行ったりして町人が困窮しない安楽な政治になってしまった。また上米の制で武士の参勤交代を軽減させ武士の力を付けやすくなった。またしかし目安箱の設置や有用な人材を登用させ百姓や町人の意見を取り入れ活発なようという姿勢は良かったと思う。

図2 生徒Aの記述(第2次2時間目終了時)

イ ②イの手だてについて

第二次の3時間目（本時）では、異なる意見をもつ生徒でグループを編成した。根拠や立場の違いを明確にしながらかし合いをさせた。

吉宗の享保の改革は、あまり善政ではない だと思う
理由(根拠とした歴史事象や資料から分かったことを示しながら書きましょう)
幕府は、政治と財政を立て直したため、政治は、結果的に安定するようになった。ただし、百姓や町人など一般民に打ちこわしを行い、前よりもその打こわしが増え、生活は、あまり善政ではない、と思う。

図3 生徒Bの記述（第2次2時間目終了時）

さん 結論(やや善政ではない)
目安箱、実学(の)中心、公事方御定書(の)でくらしがよくなる(の)は、新田開墾(の)定免法(の)百姓(の)打倒、武土(の)土着(の)制(の)半(の)打ちこわし(の)は、悪(の)X。
さん 結論(やや善政)
目安箱(の)武土(の)町人(の)半(の)打ちこわし(の)町人(の)目安箱(の)

図4 生徒Bの話し合いメモ

生徒Bは、第二次の2時間目が終了した時点で図3のように記述した。Bは幕府や百姓や町人の立場から享保の改革を考察し、改革は「あまり善政ではない」と記述した。

Bのグループには、Bとは異なる根拠で「善政ではない」と記述した生徒と、Bが言及していない事象を根拠に「善政である」と記述した生徒を含めた。Bが話し合

吉宗の享保の改革は、やや善政 だと思う
理由(根拠とした歴史事象や資料から分かったことを示しながら書きましょう)
享保の改革は、幕府が政治と財政を立て直したため、改革は、目安箱で百姓と町人から意見を取り入れた。公事方御定書(の)で犯罪を減らしたりした。財政の面に聞(き)くとも、この改革を行う前よりも安定するようになった。しかし、定免法や新田開墾(の)で、百姓は生活が苦しくなり、一般(の)起(お)こし(の)は、町人(の)米価(の)を上げ(た)町人(の)に打ちこわし(の)を起(お)こした。以前(の)は、百姓(の)や町人(の)に打ちこわし(の)の発生(の)件数(の)が増(あ)った。幕府(の)と、(の)は、良い面(の)や悪い面(の)が、百姓(の)や町人(の)と、(の)は、良い面(の)も悪い面(の)もある(の)が、善政(の)だ(の)と思(おも)う。

図5 生徒Bの記述（第2次3時間目終了時）

いの後に記述した意見が、図5である。Bは、享保の改革の目安箱や公事方御定書などの行政面についての記述を加えた。そして、百姓や町人の意見を政治に取り入れようとしたことや、幕府の財政を立て直したことを根拠にして、「やや善政であった」と意見を変えた。また、百姓や町人の立場からの考察もより具体的な記述に強化された。これらのことから、②のイの手だてによって生徒Bの多面的・多角的な考察が促され、意見を深めたと考える。

(2) 研究テーマに関わる評価

本実践は、ワークシートを中心に生徒の記述から評価した。

① 生徒の記述を分析し、多面的・多角的な考察が表れている生徒の割合から評価

第2次の3時間目（本時）後のワークシートを評価した結果は、以下のとおりであった。

「吉宗の享保の改革は善政だったのか？」について、多面的・多角的に考察し、意見を記述している。(2年2組 29人)

A	B	C
12人 (41%)	15人 (52%)	2人 (7%)

本時の評価は、多面的・多角的な考察ができていると判断した記述を評価AまたはBとした。学級全体の27名(93%)が、評価AまたはBとなった。評価Cとなった2名の生徒は、学習内容の理解が不十分であったと考えられる。それらの生徒は、事象同士を関連付けたり、複数の資料を読み取ったりすることが苦手な生徒であった。このようなつまづきを予想し、個別の指導を充実させる必要があった。

- ② 多面的・多角的な考察を苦手とする生徒を抽出生として変容を評価
 前述した生徒 B を含めた 3 名の生徒を抽出生とした。3 名の生徒は、多面的・多角的に考察した。
 次の二つの記述は、生徒 B 以外の 2 名の抽出生の記述である。

吉宗の享保の改革は 少し善政 だと思う

理由(根拠とした歴史事象や資料から分かったことを示しながら書きましょう)

幕府 は、定免法 や 上米の判 で 年貢米が安定する ことにより、財政が安定し、立て直す ことかできた。また幕府の財政が安定したことにより、武士にあげる給金 が安定した。だが米価の調整により、武士の収入が増えたり、武士たちのお金を減らす ための 参勤交代が軽減 することにより 武士が力を付けやすくなった。

百姓 たちは、不作の年でも同じ量を納めさせる定免法が一揆が多くな ってしまった。また、米価の調整 で 米価を上げた商人に対して、庶民たちは打ちこわし を起こしてしまった。結果、幕府や武士の財政を立て直した裏には、百姓や町人の苦しい思いがあった と思っています。

吉宗の享保の改革は どちらかというと善政 だと思う

理由(根拠とした歴史事象や資料から分かったことを示しながら書きましょう)

- ・幕府は年貢を安定してもらえうことで一時的に立ち直すことができた (良)
- ・町人は、お米が買いがらぐらぐら、苦 → 打ちこわし
- ・百姓は、不作でも 4~5割りのお米をあげめられるから 苦

↓
百姓一揆

図 6 抽出生の記述

(3) 今後の課題

- ① 生徒の実態に応じて適切な学習形態をとること
 本実践では、多くの生徒が多面的・多角的に考察しようとした。しかし、中には、社会的事象を正確に理解することが難しい生徒がいた。生徒が理解すべき事象については、一斉指導で教える方が定着を促し、その後の考察にも効果的だと考える。学習内容を咀嚼する時間の確保や生徒のつまづきを予想し、個の生徒に応じた資料を用意したり、段階的に資料を配付したりするなどの複数の足場の支援も必要であった。
- ② 歴史的な見方・考え方を働かせて課題を追究する単元構成
 本実践では、「吉宗の享保の改革は善政だったのか？」を学習課題に設定した。生徒は吉宗が享保の改革を行っていた時期に着目して考察を進めた。中には、享保の改革の後半から百姓一揆や打ちこわしが頻発していることや、ききんと結びつきに気付いている生徒もいた。しかし、多くは享保の改革の政策だけに着目し、さまざまな立場への影響を考察する生徒が大半であった。生徒が歴史的な見方・考え方を働かせて課題を追究するには、不十分な単元構成であった。改善の手だてとしては、百姓一揆と打ちこわしの発生件数の推移に着目させ、幕府政治と百姓一揆・打ちこわし、ききんなどの因果関係を考察させる場面を設定することが考えられる。
- また、本実践は、享保の改革の目的と内容に焦点をあてて考察する学習活動を行ったが、幕府政治の変化(推移)に着目し、享保の改革と田沼の政治、寛政の改革を比較することに焦点をあてて考察

する学習活動も有効だろう。

今後、単元構成をする際は、見方・考え方を明確にし、生徒が課題追究の場面で見方・考え方を働かせられるように単元構成を行う。

③ 多面的・多角的な考察をする学習活動を繰り返すこと

本時の学習後に、生徒に振り返りを記入させたところ、「物事を様々な立場から見たことでより深く理解できた」、「何か物事を判断するときは、いろいろな面や立場から考えるとよい判断ができると思った」、「他の教科の学習でも活かしてみたい」、「立場によって考えに違いがあるのは面白かった」などの記述が見られた。

本単元のように、多面的・多角的な考察をする活動を継続することが、生徒の主体的に学習に向かう態度を高めていくのではないかと考える。今後も日々の実践の中で、多面的・多角的に考察させることを大切にしていきたい。

8 参考文献

- ・文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』（東洋館出版社）
- ・国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校社会』（2020 年）
- ・大石学『日本史リブレット人 051.徳川吉宗 日本社会の文明化を進めた将軍』（山川出版社. 2012 年）
- ・中野英水『パフォーマンス課題を位置づけた中学校歴史の授業プラン&ワークシート』（明治図書. 2021 年）
- ・川端裕介『単元を貫く学習課題でつくる！中学校歴史の授業展開&ワークシート』（明治図書. 2019 年）
- ・明治図書『社会科教育 2018 年 3 月号 子どもが主役になる！「話し合い・討論鉄板ネタ」』